

# 大月町 事前復興 まちづくり かわら版

橘 浦

第 2 号

昨年度に引き続き、令和7年度  
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月4日（金）13:30～15:30、橘浦区長場にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



## 【地区としての復興の方向性】

### 復旧対応について

- ・孤立
  - ・ライフラインの確保・復旧
  - ・復旧期の対策をちゃんとやる
- 
- ・1週間以内にする
  - ・道路がだめだったら…  
→ 海から？  
船を着ける？
- ↓
- ・インフラを確保することで早期復旧する

### 水産業の復興について

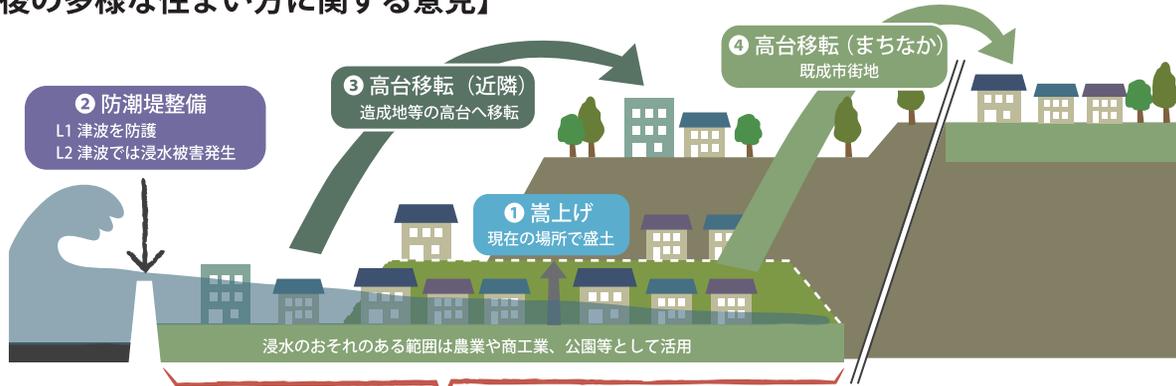
・水産業は事業者しだいで、地元として判断できない

・水産事業者は撤退する恐れがある

↓

- ・近大が稚魚を作らなくなった。
- ・養殖マグロも生産が減っている（天然の方がとれる）

## 【被災後の多様な住まい方に関する意見】



### 居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討

※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

### ① 嵩上げ

・基本的には高齢者は地元に残りたいと思う

### ② 防潮堤整備

### ③ 高台移転（近隣）

#### 1 番人気

・高台を切り崩して土地を整備したい

・土地を事前に確保する



・地権者との調整

### ④ 高台移転（まちなか）

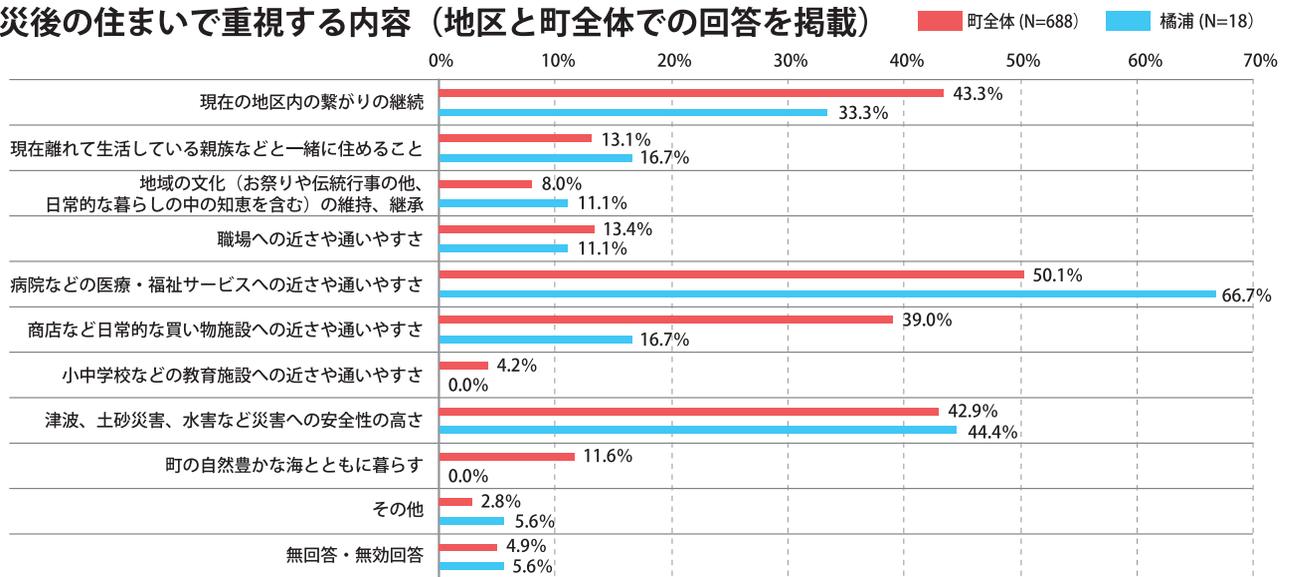
#### 2 番人気

・弘見等への移動は仕方なく、状況に応じて選択するかも。

# 大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

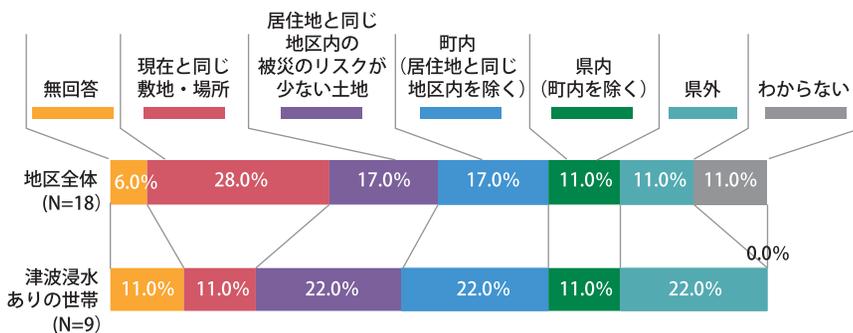
2025年8月25日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

## ●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



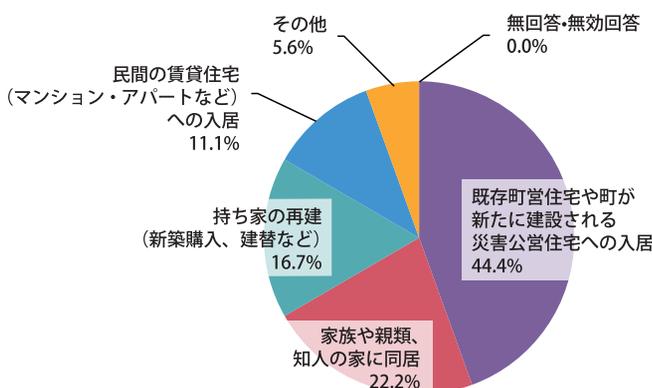
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が50.1%と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が43.3%となった。橘浦地区でも「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が66.7%が最も多く、次いで「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」が44.4%、「現在の地区内の繋がりの継続」が33.3%となっている。

## ●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所について、泊浦地区全体では「現在と同じ敷地・場所」が28%と最も多く、次いで「居住地と同じ地区内の被災リスクが少ない土地」、「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が17%となった。津波浸水の予想される世帯では「居住地と同じ地区内の被災リスクが少ない土地」、「町内（居住地と同じ地区内を除く）」、「県外」が22%、「現在と同じ敷地・場所」、「県内（町内を除く）」、「わからない」が11%となっており、意見が分かれている。

## ●復興の際の住まいの形態 (N=18)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が44.4%と最も多く、次いで「家族や親類、知人の家に同居」が22.2%、「持ち家の再建」が16.7%となっている。